

令和４年度 指定管理者年度総合評価表
(令和４年４月～令和５年３月実施分)

作 成 日	令和５年６月２日
-------	----------

■指定管理者概要

施 設 名	八戸市文化教養センター南部会館	
所 在 地	八戸市内丸三丁目３番６号	
施 設 概 要	設置目的：伝統的文化の普及及び振興を図り、市民生活の向上に寄与する 構 造：鉄筋コンクリート造、屋根一部鉄骨造、平屋建て 運用方針：和室４室、板の間１室に舞台を備えており、稽古事や展示会のほか市民が気軽に利用できる集会施設として開放する	
指定管理者	名 称	株式会社デーリー東北新聞社
	代 表 者	代表取締役社長 広瀬 知明
	所 在 地	八戸市城下一丁目３番１２号
指 定期間	平成３１年４月１日 ～ 令和６年３月３１日	
指定管理者の業務	①使用の許可に関する業務 ②施設・設備等の維持管理に関する業務 ③管理業務に附随して必要となる附帯業務等	
市 所 管 課 (問合せ先)	観光文化スポーツ部 文化創造推進課 文化創造グループ	
	電 話	0178-43-9156 (直通)
	E-mail	bunka@city.hachinohe.aomori.jp

■指定管理者による自己評価

評 価	令和４年度は、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら貸館事業及び自主事業を実施した。 貸館事業では、昨年度に引き続き利用を控える個人・団体が多く見受けられ、利用者数及び利用率が伸び悩んだ。これまでの利用者には声掛け等をして利用率が下がらないように対応した。また、問合せや下見の依頼は増加していたことから、新規利用につながるよう、より丁寧に対応した。 週に４日は特任館長４人を配置し、初めて来館した方や観光客に対し、ロビー展を始めとした南部会館の説明を丁寧にし、お客様の満足度につながった。 自主事業においては、これまで実施してきたロビー展及び「ツキイチツクル」を、毎月恒例のイベントとして定着させ、広く認知されるように努め、来館者からも概ね評価をしていただいた。 また、八戸三社大祭の代替えイベント時や八戸えんぶり開催時は、無料休憩所として開放し、多くのお客様にお越しいただけた。特に八戸えんぶりでは、自主事業として、これまで当館を利用していただいた個人・団体を中心に出演していただくイベントを実施できたことで、これからの貸館利用にもつなげることができた。 館の維持管理においては、規定どおり実施するほか、芝刈りや、清掃、装飾などをきめ細やかに行き、美化に務めた。
-----	---

今後の目標	新型コロナウイルスが令和5年5月から5類感染症に移行され、市内の文化芸術活動もより活性化することが予想・期待されることから、利用者の期待に応えられるよう適正な施設管理運営に努めていく。 南部会館の認知度を更に向上させるため、弊社の強みを活かした広報を強化していく。また、新規の顧客や来館者増につなげるため、ロビー展及びツキイチツクルをより充実させながら継続するほか、南部会館の良さを活かした新しい自主事業を実施していく。 令和5年度開催予定の八戸三社大祭、八戸えんぶり時における無料休憩所についてもお客様の満足度の高い企画を考えたい。 また、随時行っている来館者、貸館利用者からのアンケート回収に力を入れ、より地域のニーズを取り入れた取組を行っていききたい。
-------	---

■市（所管課）の総合評価

評価	施設の管理状況では、小規模修繕等への対応は迅速に行われていたほか、利用者からの要望等については市への報告、対応策の協議、協議結果を受けての利用者への対応などが迅速に行われていた。また、設備の定期的な点検や消防訓練の実施等、施設を適切に管理していく姿勢が見られた。 施設の運営状況では、令和3年度から実施している月1回のワークショップ「ツキイチツクル」も認知度が高まり、毎回一定数のお客様に参加していただいているほか、伝統的文化の普及・振興を図るという当施設の設立趣旨に沿った短歌や南部菱刺し、展示等のロビー展を毎月開催するなど、自主事業の充実を図り、当施設の認知度向上や利用促進、サービスの向上に努めていた。 また、施設内の清掃や換気など新型コロナウイルス感染対策を適切に行い、来館者が安心して利用できるように努めていた。 総合的に、指定管理者は当会館を適正に管理運営していたと評価できる。
指摘事項	・ 定例的な業務については、常に法令の定めに従った適正な取扱いを行うこと。 ・ 施設設備の老朽化部分の修繕や、市民からのニーズに応じた事業展開など、引き続き、より快適な施設サービスの提供及び管理運営に努めること。 ・ 令和4年3月に策定した「はちのへ文化のまちづくりプラン（八戸市文化芸術推進基本計画）」に基づき、市立文化施設の役割を踏まえた管理運営に努めること。 ・ 新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類に引き下げられ、市内の文化芸術活動が活発になることが期待されることから、利用者数の増加を図るため、引き続き、施設の適正な管理及び市民からのニーズに応じて事業を工夫するなど、より快適な施設サービスの提供及び管理運営に努めること。

〔評価：◎非常に良い、○良い、△やや悪い、×悪い、—評価不能〕

■管理運営状況に係る個別評価

1 管理状況		
指標	評価	評価に対する説明
開館時間、休館日の運用	○	業務基準書に示された内容に沿った対応を行っていた。 ・ 休館日の開館 なし
法令の遵守	○	関係法令を遵守し、適切な管理がなされていた。
適正な人員配置	○	業務基準書に示した配置基準に沿った有資格者や計画した事業の実施に必要な人員を、可能な限り配置していた。
従事者の労働環境確保	○	労働関係法令が遵守されていた。 ・ 最低賃金等の労働関係法令が遵守されていた。 ・ 適切な休憩時間の確保に努めていた。 ・ 定期的な休暇が確保されていた。

協働のまちづくりへの協力 ※募集時に提案していた場合(選定時加点)	△	NP0 法人はちのへ未来ネット（こどもはっち）との連携は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止。 八戸工業大学とも同様の理由でワークショップ及びロビー展を中止。
従事者の教育・研修	○	従業者の教育や研修が十分に行われていた。 ・施設の適切な管理運営を図るため、接遇研修等を積極的に行っていた。
緊急事態への対応	○	事故、災害等の緊急事態に対する備えが適切にできていた。 ・消防訓練を実施していた（年2回）。 ・災害時の緊急連絡体制の確認を行っていた（年1回）。
文書の管理保存	○	文書取扱規定が整備されており、文書は適正に管理保存されていた。
報告書等の提出	○	事業計画書、月例報告書、事業報告書、その他報告書等が遅滞なく提出され、内容も適正であった。
利用料金の取扱い ※承認料金制の場合	○	利用料金は適切に設定され、チラシ・ホームページで周知していた。
利用料金の減免 ※承認料金制の場合	○	令和4年度の減免件数3件
口座管理、経理の区分	○	指定管理者の収支は専用口座を設けて適切に行われており、経理の区分も適切であった。
通帳、印鑑の管理	○	通帳と印鑑の管理は適切に行われていた。 ・通帳と印鑑はそれぞれ別の社員が管理していた。
管理物件に対する損害賠償、第三者への賠償	—	事例なし
指定管理開始前における準備	—	今期（令和元年度～5年度）において継続して指定管理者の指定を受けているため、対応なし。
管理終了後における引継ぎ	—	今期（令和元年度～5年度）において継続して指定管理者の指定を受けているため、引継ぎなし。
重要事項の変更の届出	—	届出の必要な事例なし
施設の使用許可及び条件	○	施設使用許可、使用条件の変更は適切に行われていた。 （使用制限、入場拒否はなかった。）
施設、設備の保守管理	○	施設、設備の保守管理（点検や修繕等）は事業計画書に基づき、適切に行われていた。
備品の管理	○	備品の管理（点検や修繕等）は適切に行われていた。
清掃業務、警備業務、 その他必要な管理業務	○	清掃業務、警備業務、その他必要な管理業務は適切に行われていた。 ・清掃業務は外部業者に委託（週3日）するほか、館内の簡易な清掃及び中庭等敷地内の清掃は職員が実施した。 ・機械警備業務（夜間、無人時）は外部業者に委託して報告書により実施状況を確認していた。

2 運営状況

指標	評価	評価に対する説明
利用状況	△	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和4年度も利用申込が減少し、利用人数及び利用率は前年度を下回った。 - 令和3年度 利用人数 5,862 人 利用率 約 88% 利用日数 206 日 開館日数 234 日 - 令和4年度 利用人数 4,454 人 利用率 約 76% 利用日数 229 日 開館日数 302 日
自主事業	○	自主事業の実施により利用者増に努め、延べ参加者数は前年度と同程度であった。（八戸三社大祭期間中及び八戸えんぶり期間中に施設無料開放） - 延べ参加者数 3,047 人 ※前年度実績人数：2,012 人 （主なもの） - ツキイチツクル ※毎月第2木曜日に開催するものづくりワークショップ - ロビー展 5/1～5/31 「ふるさとの春 写真展」 6/1～6/30 「生き生きおらんど昭和の子 写真展」ほか
その他の取組 （運営に関する工夫）	○	自主的な取組を行い、当施設の認知度の向上や利用率の向上に努めていた。 - 新聞紙面やホームページ、パンフレット等で当施設や自主事業についてのPRを積極的に行っていた。 - 表門の前に当施設の説明看板を設置し、PRと利用率向上に努めていた。 - 自動販売機及び休憩スペースの設置や、展示コーナーを設置するなど、利用者のほか、見学者の増加につながるような取組を行っていた。

3 収支状況

指標	評価	評価に対する説明				
指定管理業務の収支状況	△	新型コロナウイルス感染症の影響による利用料金の還付や利用申込の減少によって、収支計画が達成できず、赤字となった。				
		(単位：円)				
			項目	収支計画	収支実績	前年度実績
		収入①	利 用 料 金	3,811,280	2,094,520	1,576,510
			指 定 管 理 料	6,128,000	6,128,000	6,058,000
			修 繕 料 繰 越 金	93,081	93,081	27,271
			新型コロナウイルス対策補助金	0	50,000	145,000
			電気・ガス価格高騰対策支援補助金	0	153,000	0
			税 還 付 金	0	43,746	0
			計	10,032,361	8,562,347	7,806,781
		支出②	人 件 費	4,939,880	4,732,264	3,914,095
			維 持 管 理 経 費	4,251,781	3,802,353	3,481,241
			事業費・一般事務費	395,500	264,573	286,095
			租 税	445,200	0	376,877
計	10,032,361		8,799,190	8,058,308		
	次年度修繕料繰越金③	0	136,891	93,081		
	収入－支出(①－②－③)	0	△373,734	△344,608		

自主事業の収支状況	○	予算額には及ばなかったが、計画的に事業を実施し、利用者数の向上に努めていた。 収入 決算額 228,983 円（予算額 1,378,900 円） 支出 決算額 179,276 円（予算額 1,121,700 円）
-----------	---	---

4 運営に係る体制整備等の状況		
指標	評価	評価に対する説明
利用者満足度の把握	○	利用者満足度を調査し、その結果を活かす仕組みがあった。 ・利用後にチェックリストを提出してもらい、意見・要望を取り入れるようにしていた。 ・館内にアンケート用紙及び目安箱を設置し、利用者だけでなく見学者の意見・要望を取り入れるようにしていた。 ・特任館長を配置し、利用者から直接意見や要望を聞く体制を整えた。
施設概要(利用方法)の周知	○	施設概要や利用方法等をホームページや案内パンフレットにより周知していた。
苦情・要望等の受付体制	○	苦情・要望等を聞く仕組みができていた。
苦情・要望等への対応	○	苦情・要望等があればその都度対応する体制となっていた。 （令和4年度実績：苦情・要望1件）
個人情報の保護	○	個人情報保護の規程が整備され、遵守されていた。（運用実績なし）
情報公開	○	情報公開の規程が整備され、遵守されていた。（運用実績なし）
秘密保持義務	○	秘密保持義務が守られ、適切に対応されていた。 ・秘密保持義務については、随時注意するよう促していた。
環境への配慮	○	環境に配慮した物品購入、省エネルギーへの取組、リサイクルの推進等の対応を適切に行っていた。 ・施設のごみは分別し、可能なものはリサイクルしていた。 ・環境に配慮した物品購入が行われていた。
障がい者への配慮	○	障がいを持った方でも気軽に利用できるよう対応を行っていた。 ・館内用の車いすを設置している。 ・正門及び玄関にスロープを設置している。 ・バリアフリーの多目的トイレを設置している。

■他の事業評価実施状況

1 セルフモニタリング	
自主点検状況	実施状況
	建築物、設備及び備品等について、点検を実施した。 ・警備機器の定期点検（警報装置保守点検） ・建築物（1回）、建築設備（1回） ・消防用設備点検（2回）、防火対象物点検（1回） ・樹木剪定作業（1回）、薬剤散布（2回）、施肥（2回）、樹木点検（毎月）を実施。 ・庭隅の笹竹の刈り取りなどを実施。

2 定期モニタリング	
定期報告状況	実施状況
	月例業務報告書は期限内に提出され、内容は適切であった。

3 随時モニタリング				
実地調査状況	実施回数	実施日	実施者	実施内容
	24回	月平均 2日程度	担当 (必要に 応じ GL)	・申請書及び帳簿類の確認 ・事業実施に係る打合せ ・建物や設備の破損状況の確認 ・災害時の被害状況確認
	実施結果			
	建物及び設備の破損等がある場合は、適切に報告・修繕等の対応をした。地震や強風時も速やかに状況確認を行った。			

※GL：グループリーダー